

第2期産業振興計画(産業成長戦略観光分野)の取り組み状況等

【概要・目的】全国からの誘客の目玉となる観光拠点を中心とした県内の地域周遊が進み、観光消費が拡大することを目指して、地域の特色ある観光商品の造成や販売を通じた担い手の育成をはじめ、全国に発信できる核となる観光拠点の整備や観光資源の発掘・磨き上げ、広域の周遊プランを推進する地域コーディネート機能の強化に取り組む。

第1期計画(H21~H23)3年間の取り組みの総括と課題

総括

- 室戸ジオパークや海洋堂ホビー館のような地域の核となり得る新たな観光拠点が生まれ、多くの人を訪れるようになった
- お城まつりや五台山花絵巻のように観光商品の磨き上げが進み入込客が増加した
- 「土佐の豊穰祭」やサイクリングイベント「コグウェイ四国」など高知の強みを生かした新たな誘客イベントができた
- 観光アドバイザーによる支援を通じて、体験プログラムが充実し、ガイド料が得られるなど、お金が落ちる仕組みができつつある
- 地域コーディネート組織による広域的な情報発信や誘致活動が成果を挙げる事例が生まれてきた
- 観光ガイド団体の増加や有料ガイド化が進んだほか、観光ガイド連絡協議会の設立などガイドの連携意識が高まってきた
- 体験型観光の磨き上げが進むとともに、観光ガイドや体験インストラクターのコミュニケーション能力の向上などが図られた

課題

- ◆観光客が県内各地域を周遊するためには、その地域への誘客の目玉となる観光拠点を整備することが必要
- ◆リピーターにつながるような満足度の高い観光商品づくり
- ◆外からの視点などを取り入れた新たな観光資源の創出による観光客の受け皿の拡大
- ◆地域で観光商品を拡大するための仕組み
- ◆周遊観光を推進していくための観光事業者や関係団体との連携強化
- ◆地域コーディネート組織のセールス機能等の強化
- ◆観光産業を地域で伸ばしていく人材の不足
- ◆観光客の満足度をより高めるための、質の高い観光ガイドの育成が必要

H24年度の取り組み・進捗状況

取り組み状況

- ◆観光人材育成塾「とさ旅セミナー」の開催
地域自らが特色ある観光商品の造成と販売を継続していくため、周遊プランづくりやセールス活動の実践を通じて地域観光の担い手を育成(セミナー実施状況)※地域観光プロデューサーと連携して実施
対象地域：県内7ブロック(高知市ブロックは10月より実施)
対象者：各ブロック30~50名
広域観光協議会、観光協会、市町村担当者、地域支援企画員、観光関係者(観光施設、宿泊施設、体験事業者、道の駅、直販所、ガイドなど)
実施内容：
準備会(5月)
第1回ワークショップ(6~7月)：観光資源の棚卸
第2回ワークショップ(7~8月)：周遊プラン骨子
GAP調査(8月)：観光資源や周遊プラン骨子のマーケット調査(1,000人)
第3回ワークショップ(9月)：周遊プランの商品化
セールス実行委員会結成(10月~)：プランの磨き上げと旅行会社へのセールス活動

- ◆エリアキャンペーンに向けた観光商品づくり
観光資源の整備や各地域の観光拠点を中心とした周遊プランを作成し、全国からの誘客につながる観光地づくりを推進
・核となる観光拠点の整備と観光資源の磨き上げ
・観光アドバイザー研修による体験プログラム等の磨き上げ
- ◆地域コーディネート組織の機能強化
広域ブロック単位でのワンストップサービスや周遊プランの造成など、機能強化のための支援
・体制づくりへのアドバイス、協議、ネットワークづくり
・観光人材育成塾を活用した組織の強化

課題

- ◆観光人材育成塾で生み出された周遊プランのさらなる磨き上げと平成25年度エリアキャンペーンでの活用
- ◆エリアキャンペーン展開に向けた早期の観光商品づくり
- ◆地域コーディネート組織の状況に応じた推進体制や機能の強化

H25年度の主な取り組み(予定)

- ①核となる観光拠点の整備
東部：室戸ジオパーク拠点施設の整備
中部・西部：新たな観光拠点の検討
- ②エリアキャンペーン等に向けた観光商品づくり
とさ旅セミナーで作成したプランやH24エリアキャンペーンを基に、多くの観光客が訪れる観光地づくりを推進
・核となる観光拠点の整備と観光資源の磨き上げ
・地域観光プロデューサーのアドバイスによる観光資源の商品化
- ③観光人材育成塾「とさ旅セミナー ステップアップ研修」の開催
地域の事業者等と連携し、観光商品づくりやセールスなどの取組みを行う地域観光の核となるリーダーの育成
・対象者：各ブロック5名程度。月1回程度開催。
今後、地域で観光に取り組むリーダーの方々(広域協議会、観光協会、観光事業者等(H24とさ旅セミナー参加者等))
・実施内容：以下のA~Eのプログラムを実施(内容については協議中)
A 旅行者視点強化プログラム(5~6月)3回
B 商品開発プログラム(6~8月)3回+マーケティング調査
C テストマーケティング(8月~)
作成したプランのプロモーション、モニターツアー、パンフレット作成、旅行会社へのセールス等
D 観光専門スキルアッププログラム(9~12月)4回+先進地調査
E ふりかえり(3月)1回
- ④地域コーディネート組織(広域観光協議会等)の機能強化
各地域コーディネート組織の状況に応じた機能強化や体制整備への支援
・観光アドバイザーの支援による組織の機能強化
・「とさ旅セミナー」による地域観光の核となるリーダーの育成
・コンベンション協会との連携によるプロモーションやセールス活動等の支援
- ⑤地域博覧会の開催を通じた組織・機能の強化
広域組織が中心となって進める博覧会の開催に要する経費の支援及び市町村や関係団体、事業者等との連携調整

直近の成果(アウトカム)

- ①観光拠点整備事業において、「海洋堂ホビー館」に隣接する旧打井川小学校校舎の改修により、H25以降、企画展示及び多目的スペースを活用した体験プログラム等団体客の受入が可能となった。
- ②観光人材育成塾「とさ旅セミナー」において、幡多地域のメンバーが首都圏の旅行会社7社にプランを売り込んだ結果、3社において、年明けから旅行商品として販売予定。(商品化予定の3社：①近畿日本ツーリスト㈱メイト(募集型企画旅行・個人型フリープラン・Web)、②ビッグホリデー㈱(募集型企画旅行・個人型フリープラン・Web、③㈱ホワイト・ベアーファミリー(募集型企画旅行・団体型メディア系)
(高知市以外は、1月10日、11日のセールスキャラバン(岡山、高松、松山、徳島)等でセールス予定)
- ③エリアキャンペーンを通じて、各地で新たな観光商品が生まれ、旅行商品化に結びつく。
(例：仁淀川地域の旅行商品化：読売旅行5プラン、阪急交通社3プラン、フジトラベル5プラン等、室戸ジオパークを巡るスペシャルジオツアーの旅行商品化5件等)

目指すべき姿(平成27年度末)

- ◆地域の誘客の目玉となる観光拠点が整備されることで、そこを目指して全国から多くの観光客が訪れるとともに、広域エリアで観光拠点を中心とした地域周遊が進み、県下各地で観光消費が拡大している
- ◆核となる観光拠点の整備 県内7か所
- ◆地域観光の担い手が育ち、特色ある観光商品が次々と生み出されている
- ◆地域資源を観光に活用する取組が進んでいる
- ◆県内の地域周遊が進み、道の駅や直販所などでの観光消費が拡大している
- ◆県内各広域エリアで作られた周遊プランが旅行商品化される
- ◆観光産業を担う人材が育成される(人材育成塾の参加者 200名/年)
- ◆観光ガイド団体の会員数が増加するとともに、レベルアップとガイドメニューの充実が図られる

【概要・目的】

これまでの博覧会の開催を通じて培った広報・セールス活動のノウハウを生かしながら、旅行マーケットの動向を踏まえつつ、ターゲットにあわせた効果的な広報やセールス活動を展開していく。

第1期計画(H21~H23)3年間の
取り組みの総括と課題

総括

○旅行エージェントへのセールスなどを通じて、PRのノウハウが蓄積した

課題

- ◆多様化する旅行形態や観光ニーズを踏まえた情報発信が不十分
- ◆プロモーションを行うターゲット(エリア、年代、性別等)が必ずしも明確化されていない
- ◆「龍馬伝」のような大きな追い風は当面は期待できない

H24年度の取り組み・進捗状況

取り組み状況

- ◆「リョーマの休日」の推進
「志国高知 龍馬ふるさと博」終了後の県観光を効果的にPRするため、4月から「わざわざ行こう!志国高知へ」をキャッチフレーズに、観光キャンペーン「リョーマの休日」を実施
*龍馬パスポート申請者数 20,679人(うち県外利用者約2/3)(11月末現在)
- ◆エリアキャンペーンの実施
県内各地域への誘客を図るため、季節ごとの地域の魅力を盛り込んだエリアキャンペーンを企画、実施
※ エリアキャンペーンの実施状況
・仁淀川キャンペーン(6/1~9/30)
・高幡・四万十エリアキャンペーン(7/1~9/30)
・室戸ジオパーク・高知東海岸エリアキャンペーン(9/1~11/30)
・物部川エリアキャンペーン(10/1~12/31)
・四万十・あしずりエリアキャンペーン(12/1~3/31)
- ◆官民一体となった旅行会社向けセールスキャラバンの実施
【24年度下半期向け】
・東京、名古屋(5/14~15) ・大阪【JR四国商品説明会】(5/22)
・福岡、広島(6/5~6) ・神戸、大阪、京都(6/20~21)
・徳島、岡山、高松、松山(7/5~6)
*135社294名参加
【25年度上半期向け】
・東京、名古屋(10/4~5) ・大阪(10/23)
・四国ツーリズム創造機構首都圏プロモーション(10/17)
・JR西日本観光素材説明会出席(10/29)
・四国ツーリズム創造機構中京地区プロモーション(11/2)
・福岡、広島、岡山(11/6~7)
・四国ツーリズム創造機構福岡地区プロモーション(12/12)
・徳島・岡山・高松・松山(1/10、11)
*128社477名参加
- ◆キャンペーンガイドブックの発行など、一般個人向け広報の実施
・夏号(7/5)、秋号(8/22)、冬・春号(11/20)
・ANA「翼の王国」(8月号) など各種媒体による観光PR
- ◆首都圏等のマスメディアでの情報発信
県外事務所や地産外資会社との連携によるマスメディアへのパブリシティ活動の強化
・メディアに取り上げてもらうための企画、プランニング
・企画、プランニングに基づく各種メディアへの情報発信
・メディア各社とのネットワーク構築のための情報交換会等
(計11回(予定):5/9、6/8、7/24、8/22、9/26、10/31、11/22、12/21、1月下旬(予定)、2月(予定)、3月(予定))

課題

- ◆各地域や関係団体との更なる連携強化によるプロモーションの実施
- ◆キャンペーンの県内、県外に向けた効果的な広報の実施
- ◆旅行商品化を視野に入れた次年度エリアキャンペーンの企画、検討

H25年度の主な取り組み(予定)

- ◆「リョーマの休日」キャンペーンの推進
・24年度に引き続き「リョーマの休日」キャンペーンを実施し、季節ごとに地域の観光素材を売り出して行くエリアキャンペーンにより、県内各地域への誘客を図る。
※ 25年度のエリアキャンペーンの予定
4~9月 嶺北エリア、仁淀川エリア、高知市エリア
7~12月 高幡エリア、四万十・足摺エリア
10~3月 物部川エリア、室戸ジオ・高知東海岸エリア
・「龍馬パスポート」の動向分析を行うことにより、ターゲットを明確にした旅行会社やマスメディアへの旅の提案、さらなるリピーター対策や周遊促進策に結びつける。
- ◆ターゲットを明確にしたプロモーション活動の強化
・24年度策定した「観光プロモーション戦略」に基づき、よりターゲットを意識した効果的な広報・セールス活動を展開する。
・官民協働による旅行会社向けセールスキャラバンを継続して実施する。
※ 25年度のセールスキャラバンの予定
東京・名古屋(5月、10月)
大阪・京都(6月、11月)
福岡・広島(6月、11月)
岡山・四国(7月、12月)
- ◆誘客の拡大が見込める首都圏等でのマスメディア向けパブリシティ活動を強化する。
- ◆近隣県に向けてイベントやキャンペーン情報など、きめ細かな広報活動を継続的に実施する。
- ◆映画「県庁おもてなし課」の公開に合せた県外プロモーション活動を集中的に行う。
- ◆平成26年度以降の観光プロモーション戦略の検討
・キャンペーン終了後の誘客戦略について「こうち旅広場」のあり方とともに検討を行う。
~4月 コンセプトの検討
5月~6月 具体的な事業計画案、展開案の検討
7月 事業計画案の取りまとめ
8月 平成26年度上期プロモーション戦略の検討
10月~ 平成26年度の観光プロモーションの実施

直近の成果(アウトカム)

- ◆「リョーマの休日」の推進
・「龍馬パスポート」の取得を目玉とする新たな旅行商品化の実現
・室戸ジオパークや仁淀川など新たな観光素材の旅行商品化が実現し、県内各地域への誘客が進んだ
- ◆首都圏等のマスメディアでの情報発信
メディア露出24件(TV10件、雑誌5件、新聞2件、ラジオ1件、WEB6件)
⇒ 広告換算で 約4億4,700万円(ラジオ・WEBを除く)

目指すべき姿(平成27年度末)

- ◆ターゲットを明確にした観光プロモーションが継続され高知県の認知度が向上する

分野：観光分野

テーマ：おもてなしの向上

【概要・目的】

県民挙げてのおもてなし気運の醸成をはかるとともに、きめ細やかな観光情報の提供や交通の利便性の向上など、観光客の快適性を高めるため、ハード・ソフトの基盤整備に取り組む。

第1期計画(H21~H23)3年間の取り組みの総括と課題

総括

○宿泊業やタクシー運転手へのマナー研修の実施、おもてなし県民会議を開催するなど、幅広くおもてなしの気運の醸成につとめた結果、官民一体となった観光客に対するおもてなしの意識の向上が図られた。

また、市町村が行う観光案内板・誘導標識の整備等への助成のほか、景観整備や公共トイレの整備を実施。ゴールデンウィークや夏休み等における渋滞対策およびサービスエリア等での臨時観光案内所の開設を行い、観光客の満足度を高め、移動時間短縮による経済波及効果をもたらした。

課題

- ◆旅先で快適に感じていただけるような環境の整備や、おもてなしの心のさらなる醸成
- ◆観光客の多様なニーズに対応するためには、観光案内所やインターネット等による情報提供が求められている
- ◆来県者の周遊性や利便性をより高めていくためには、観光案内板や二次交通等の整備が必要

H24年度の取り組み・進捗状況

取り組み状況

- ◆観光ガイドの育成、技術の向上
 - 観光ガイド育成研修の実施
 - ・観光ガイドセミナー（ガイド研修（体験、講演）、情報交換会 11/27：108名参加）
 - ・地域別研修会（ガイド研修、南海地震対策、情報交換会）
 - 3回：中部（6/25：57名参加）、東部（10/17：29名参加）、西部（1月予定）
 - ・個別勉強会（15回開催）：活用を市町村等へ依頼（6/15）、14回開催（12月末現在）
 - ガイド研修の拡充
 - ・観光人材育成塾（とさ旅セミナー）へのガイド団体の参加：安芸、物部川、高知市、仁淀川、高橋、幡多地域
 - 障害者サポート研修の実施（障害保健福祉課との連携）（9/11）参加者：37名
- ◆おもてなしの気運の醸成
 - ・おもてなし県民会議の開催（第1回：5/30、第2回：10/16）
 - ・おもてなしトイレ認定募集開始（7月末）、認定226件（12/24現在）
 - ・土佐流おもてなしセミナーの開催（9/16）参加者：約300人
 - ・国際観光受入研修（ロールプレイ）の実施（9/4：59名参加、9/11：22名参加）
- ◆きめ細やかな観光情報の提供
 - ・「とさてらす」での観光案内
 - ・臨時観光案内所開設によるパンフレットの配布や観光案内を実施（GW：南国SA豊浜SA、高知城周辺・盆休み：南国SA吉野川SA・カワノ木オープン、龍馬マラソン（予定）、プロギア（予定））
- ◆県内の観光地を結ぶ移動手段の確保
 - 観光ガイドタクシーの利用促進に向けた検討
 - ・他県の状況についてアンケート調査を実施（6/8）
 - ・タクシー事業者との意見交換会（6/13）
 - ・観光ガイドタクシー認定制度実行委員会でのPR方法の検討（6/29）
 - PRの内容を協議
 - ・よさこいネットで新たに紹介ページを作成（7/20）
 - ・通称を「おもてなしタクシー」とする（9/1～）
 - ・市町村、観光協会あてに利用促進に向けた周知を依頼（11/2）
 - ・おもてなしタクシーPRチラシ配布（市内版：10/25、市外版：11/20）
 - ・おもてなしタクシー乗り場の新設（12/21～）
 - 接客研修の実施・空港乗入れタクシー乗務員への研修の実施（6/11、12、14：100名参加）
 - タクシー・ハイヤーの接客向上を目指した取り組み
 - ・降車客等からの聞き取り、車内に搭載したハガキ・インターネットによる意見受け付け（11月～H25年3月）
- ◆観光基盤の整備
 - 県外観光客に対し満足度調査（アンケート調査）を実施
 - ・台湾チャーター便搭乗者等への聞き取り調査の実施（4/8、12、16 サンプル数：34、11/23、27 サンプル数：30）
 - ・満足度調査の実施（サンプル数 GW：686、8月～9月：600、10月～12月：室戸ジオ・東海岸・物部川エリア、秋のお城まつり、土佐の豊穰祭で実施）
 - ・置き型アンケート調査の実施（通年 サンプル数：640（4/29～12/7）実施場所：とさてらす）
 - ・各観光施設等へのフィードバック（6月実施：8施設・団体、12月実施：13施設・団体）
 - ・その他情報提供（宿泊施設、協力施設、関係機関等）
 - 市町村が行う観光案内板・誘導標識の整備等への助成（16市町村、30事業）
 - 広域観光案内板等の設置（広域観光案内板2基、道路誘導標識3基）

課題

- ◆ガイド団体の技術の向上
- ◆ガイド団体の新たな立ち上げを支援しそ野を広げる
- ◆タクシードライバーの質とおもてなしタクシーの認知度の向上

H25年度の主な取り組み（予定）

- ◆観光ガイドの育成、技術の向上
 - ・おもてなしセミナー、観光ガイド研修、個別勉強会の開催支援
- ◆おもてなしの気運の醸成
 - ・おもてなし県民会議の開催
 - ・おもてなしトイレ認定事業
 - ・**④**おもてなし研修の開催
（これまでの接遇研修に加え、タクシー業界や観光ガイド等を含む観光関連業の従事者に対し、観光情報等の情報共有や外国人受け入れ等の研修を行う）
- ◆きめ細やかな観光情報の提供
 - ・「とさてらす」での観光案内
 - ・臨時観光案内所開設によるパンフレットの配布や観光案内を実施
 - ・**④**県庁内ロケセットでの観光案内
（映画「県庁おもてなし課」のロケセットを県庁内に復元し誘客を行うとともに、観光ガイドを配置し、ロケ地への周遊およびその他の観光案内を行う）
- ◆県内の観光地を結ぶ移動手段の確保
 - ・おもてなしタクシーの認定
 - ・タクシーの接客向上に向けた調査
（降車客等からの聞き取り、車内に搭載したハガキ・インターネット・電話による意見受け付けにより、調査結果をタクシー業界にフィードバックし、タクシードライバーの接客向上につなげる）
 - ・MY遊バスの運行、タクシーの周遊プランの情報提供
- ◆観光基盤の整備
 - ・県外観光客満足度調査の実施
（各イベントやエリアキャンペーン実施にあわせ、県外観光客に対し聞き取りによるアンケート調査を行い、調査結果により業界や対象施設等にフィードバックし観光客の満足度向上につなげる）
 - ・広域観光案内板等の設置
 - ・市町村が行う観光案内板・誘導標識の整備等への支援

目指すべき姿（平成27年度末）

- ◆県民発意によるおもてなしが県内に拡がり各地で活動が見られる
- ◆ホスピタリティを感じる観光客が増加し、リピーターにつながる
- ◆観光ガイド団体の会員数が増加するとともに、レベルアップとメニューの充実が図られる
- ◆高知県観光ガイド連絡協議会の事務局体制が確立する
- ◆核となる拠点エリアにおいて、一元的に地域の観光情報を収集発信する観光案内所が整備されている
- ◆おもてなしタクシーの認定ドライバーが増加する

直近の成果（アウトカム）

- ・観光ガイド組織の立ち上げに向け、観光ガイドセミナーへの参加など観光ガイド連絡協議会との連携が生まれた（大月町）
- ・ガイドの意識や質の高さが評判となり、県外から頻りに視察が訪れている（室戸市観光ガイドの会）
- ・“おもてなしトイレ”の認定を行うことで、おもてなしのトイレが拡がるとともに、気運の向上につながった（認定トイレ：224件（12/24））
- ・タクシー、ハイヤーの接客向上を目指した取り組みにおいて、タクシー利用者からの聞き取り調査の結果をタクシー業界にフィードバックすることにより、改善を必要とする事務員のみへの指導にとどまらず、事業所全体で改善に取り組む動きが見られ始めた。
- ・広域観光案内板を設置したことで、周遊観光への誘因の一助となった。（にこにこ館（いの町））

【概要・目的】

スポーツツーリズム推進のため、プロスポーツやアマチュア合宿・大会の誘致、地域密着型のイベント開催など通年を通じた取り組みを図る。

第1期計画(H21~H23)3年間の取り組みの総括と課題

総括

○一定の観客動員により、本県への経済波及効果が生まれた

課題

◆合宿誘致やスポーツイベントの開催は単発の取組となっているため、切れ目なく誘客を図るためには年間を通じた体系的な取組を進めていく必要がある

◆県内における施設のキャパシティが限られているため、集中する時期には受入が困難な場合があり、計画的な施設整備が必要である

H24年度の取り組み・進捗状況

取り組み状況

- ◆庁内PT(プロジェクトチーム)検討会の開催(4/12、6/20、8/3)
 - (観光振興部、財政課、政策企画課、南海地震対策課、公園下水道課、スポーツ健康教育課、県観光コンベンション協会)
- 施設整備計画の策定、受入体制の充実
- ◆WG(ワーキンググループ)の立上げ(合宿等の誘致に向けた情報交換・収集)
 - (野球 8/13・11/25・12/5、サッカー4/11・6/11・10/26、陸上 5/25、ソフトボール 6/13・7/6・12/3、バレーボール 7/6、ラグビー5/11の6競技を延べ12回開催)
- 誘致先の絞込み(合宿誘致に向けた活動)
 - ・7/18、19 関西サッカー連盟所属チーム(関西大学、大阪商業大学、桃山学院大学、甲南大学、関西学院大学)の5大学訪問
 - ・7/26 関西ソフトボール連盟所属のチーム(京都産業大学、同志社大学、大阪大学)訪問
- 韓国小中学校硬式野球チームの合宿誘致に向けた取組(9/7,8 韓国訪問)
 - H25.1.6~29 合宿予定(室戸市)
 - ・京畿道利川(イチョン)市 瓦洞(モガ)中学(35名)、ソウル市鐘路(チョンノ) 祥明(サンミョン)中学(31名) *宿泊:約1,540泊予定
 - ・ソンドン小学(24名)1/6~2/1 合宿予定(高知市) *宿泊:約600泊予定
- 京都大学硬式野球部合宿誘致(H25.2.20~3.1 土佐清水市予定) *400泊予定
- 高校弓道西日本合宿(H25.1.25~27 高知県立武道館予定) *56泊予定
- 高校女子ソフトボール西日本合宿(H25.1.4~6 春野総合運動公園) *1,152泊予定
- 日本陸上競技連盟ジュニア強化合宿(H25.3.25~29 春野総合運動公園等) *1,640泊予定
- ◆プロスポーツの誘致
 - ・定期的な訪問によるプレシーズンマッチ等の開催やキャンプ誘致
 - プロ野球団 6球団訪問(延べ33回)
 - ※オリックス秋季キャンプ(11/6~21)、阪神秋季キャンプ(11/1~19)
 - プロサッカーチーム 3チーム訪問(延べ7回)
- ◆スポーツイベントの開催
 - ・高知県知事杯サーフィン大会 in 平野(9/22,23 参加178名うち県外100名)
 - ・コグウェイ四国(9/30~10/10(県内10/6~10/8 参加130名うち海外49名))
 - ・中土佐マラソン(11/4 参加103名うち県外52名)
 - ・四万十・足摺無限大チャレンジライド(H25.3.2~2 開催予定)
 - ・高知龍馬マラソン(H25.2.24 開催予定)
- ◆プロゴルフ大会の継続開催に向けた取組
 - ・カシオワールドオープンゴルフトーナメント2012(11/22~25 観客18,026人)
 - ・プロギアレディスカップ(H25.3.15~17 開催予定)
- ◆ラグビートップリーグ公式戦(神戸製鋼 VS NEC 10/27)観客2,324人
 - ・集客に向けたチケット販売、広報等の協力
- ◆全国規模の大会の開催
 - ・ミスノグローイングアップリーグの開催(U-18 サッカー大会約300名)(7/24~26)
 - ・大会継続に向けた協議(9/19)

課題

- ◆スポーツツーリズム推進に必要な施設整備
- ◆プロ野球プレシーズンマッチの継続開催、キャンプ誘致

H25年度の主な取り組み(予定)

- ◆庁内PT、WGの開催
 - ・◎競技団体、市町村に旅館組合、施設管理者を加え実施
 - ・施設整備に関する協議
- ◆プロスポーツの誘致
 - プロ野球キャンプ誘致
 - ・◎春野球場のブルペン整備
 - ・オリックスバファローズ1軍秋季、春季キャンプ
 - ・西武ライオンズ2軍春季キャンプ
 - ・阪神タイガース1軍秋季キャンプ、2軍春季キャンプ
 - ・韓国高陽ワンダーズ春季キャンプ
 - プレシーズンマッチの開催
 - ・国内4球団(+α)による開催
 - Jリーグキャンプ誘致
 - ・アルビレックス新潟、東京ヴェルディ、徳島ヴォルティス、鳥取ガイナーレ
 - ◎女子プロ野球春季・秋季キャンプ・リーグ戦誘致
 - ・兵庫スイングスマイリーズ、大阪ブレイバーハニーズ、京都アストリームス +1球団
 - プロゴルフトーナメント
 - ・カシオワールドゴルフトーナメント
 - ・プロギアレディスカップ
- ◆アマ合宿・大会誘致
 - ・◎社会人及び大学等の合宿誘致増
 - ・◎韓国小中学生等の合宿誘致増
 - ・◎ラグビートップリーグ合宿誘致
 - ・◎ミスノグローイングアップリーグの開催(参加チーム増)
- ◆スポーツイベントの開催等
 - ・◎全日本サーフィン大会 in 生見の開催支援
 - ・高知県知事杯サーフィン大会 in 平野の開催支援
 - ・四万十・足摺無限大チャレンジライドの開催支援
 - ・コグウェイ四国(四国1周ライド)の開催支援
- ◆◎2019ラグビーワールドカップのベースキャンプ誘致に向けた取組
 - ・ワールドカップ組織委員会訪問(情報収集及び会議出席)
 - ・ワールドカップ開催地訪問及び誘致プロモーション

直近の成果(アウトカム)

- ◆スポーツツーリズムの推進による成果(H24.4月~12月)⇒約600泊
 - ・高知県知事杯サーフィン大会 in 平野
 - ・ミスノグローイングアップリーグの開催(U-18 サッカー大会)

- ◆今年度中に誘致が見込まれる合宿 ⇒ 合計 5,388泊
 - ・韓国小中学校硬式野球チーム合宿
 - ・日本陸上競技連盟ジュニア強化合宿
 - ・京都大学硬式野球部合宿
 - ・高校女子ソフトボール西日本合宿

目指すべき姿(平成27年度末)

- ◆様々なスポーツイベントが開催され、新たな観光客の獲得ができています

【概要・目的】 主要なターゲットである東アジアを中心に、各国の特性と本県の強みをマッチングさせたきめ細かい戦略により、本県への誘致活動を進めるとともに、観光案内版の多言語化や観光事業者への研修を実施するなど受入態勢の充実を図る。

第1期計画(H21~H23)3年間の取り組みの総括と課題

総括

- 韓国、台湾チャーター便が就航するなど、外国人観光客の誘致につながった。
- 多言語化を条件とした市町村が行う観光案内板・誘導標識の整備等への助成により外国人観光客の受入態勢が徐々に向上。

課題

- ◆海外からの直行便がない
- ◆海外からみると、高知だけでなく四国としての認知度も依然低い状況
- ◆外国人の受入態勢の向上

H24年度の取り組み・進捗状況

取り組み状況

◆国別戦略に基づく誘致活動

<台湾>

- ・台湾復興航空チャーター便就航(4/4~16、3便483名)
- ・台湾の旅行観光サイトを活用した観光プロモーション活動開始(6/25~)
- ・高松空港を活用した中華航空下見ツアーの実施(8/22~26)
- ・台北国際旅行博、台北微風広場でのよさこいPR(10/26~29)
- ・台湾復興航空のチャーター便就航(11/15~12/1、4往復)
- ・中華航空(高松空港利用)ファミツアー及び商談会(12/20~21)
- ・ランタンフェスティバルへのよさこいチーム派遣してのPR(2/24予定)
- ・台北旅行会社との商談会(2/25予定)

<韓国>

- ・済州島ジオパーク関係者と面談(5/12世界ジオパーク島原大会)
- ・ソウル大学関係者視察ツアー(7/13~15)
- ・韓国航空会社の県内視察(10/21~23)
- ・教育旅行誘致事業(10/27~30)
- ・田内千鶴子記念事業へのよさこいチーム派遣(10/29~11/1)
- ・韓国の旅行観光サイトを活用した観光プロモーション活動開始(11/1~)
- ・順天湾国際庭園博出展準備(1月~予定)

<香港>

- ・香港ジオパーク関係者との面談(5/12世界ジオパーク島原大会)
- ・雑誌記者の招聘(8/9~12)
- ・旅行会社訪問してのチャーター便協議(9/14)

<中国>

- ・県観光振興部と安徽省旅游局との観光交流覚書署名(4/19)
- ・天柱山ジオパーク関係者との面談(5/12、7/28)
- ・安徽省での旅行会社、メディア等へのプロモーション実施(7/27)
- ・安徽省旅行会社等のよさこい視察(8/9~12)

<シンガポール>

- ・レンタカー利用のドライブツアーの実施(4/4~6、11/16~18、3月予定)
- ・ラッフルズ高校教育旅行視察(9/16)
- ・シンガポールメディアの土佐清水市取材(11/7~9)
- ・四国ドライブツアー

<共通>

- ・台湾、韓国等の旅行会社へのセールス活動、教育旅行の誘致活動
- ・台湾、韓国、中国等の旅行エージェント、メディア等招聘(四国レイルバスメディア取材7/30~8/3、ビジットジャパン事業8/25~30、四国インバウンドフェア)
- ・インバウンド対策勉強会(10/5)
- ・四国4県連携でのコグウェイ四国海外情報発信事業(メディア招聘)(9/30~10/10)
- ・海外ジオパークと国際ネットワーク構築に向けた協議(11/2)

◆受入態勢の整備

- 県内留学生等による国際観光サポーターの組織化
- ・県内観光地へのモニターツアー実施(7/22)
- 観光基盤の整備
- ・訪日外国人旅行者の受入環境整備事業の申請・事業採択(6月)
- ・多言語化を条件とした市町村が行う観光案内板・誘導標識の整備等への助成(16市町村30事業)
- ユニバーサルデザイン化
- ・宿泊・観光施設での外国人観光客受け入れ態勢の向上に向けた取組内容の聞き取り(宿泊2件、観光3件)
- 国際観光受入研修(ロールプレイ)の実施(9/4、9/11)

課題

- ◆チャーター便等による団体客の誘致
- ◆高松・松山等の定期便による個人客の誘致
- ◆ジオパークネットワークの確立
- ◆各国のマーケット特性にあった観光資源の発掘
- ◆インバウンド対策の課題の洗い出し
- ◆関係事業者との情報共有とインバウンド対策への熟度向上
- ◆四国4県連携によるプロモーション活動の推進

H25年度の主な取り組み(予定)

平成25年度の取り組み予定

◆国別戦略に基づく誘致活動

- ・旅行会社、航空会社等への継続的なセールス活動の実施
- ・旅行会社等を招へいするモニターツアーの実施
- ・チャーター便等の誘致
- ・定期便を利用した四国周遊ルートの開拓、PR
- ・教育旅行、スポーツツーリズムなど特定目的旅行誘致
- ・ウェブサイトやよさこい踊りを活用した、相手国での積極的な情報発信
- ・台湾・新竹県からのよさこい祭りへの参加
- ・高知県在住外国人の協力による情報発信
- ・インバウンド勉強会での課題整理

◆受入態勢の整備

- ・観光案内板、誘導標識等の整備
- ・観光業界の従業員等受け入れ態勢の強化
- ・国際観光サポーター会議の開催

◆④四国4県連携によるプロモーション活動の推進

- ・四国4県インバウンド担当者協議会の開催
- ・四国ツーリズム創造機構と連携した認知度向上及び誘客の実施

◆⑤国際ジオパークツーリズムネットワークを活用した交流

- ・済州島(韓国)、天柱山・香港(中国)、ランカウイ(マレーシア)のジオパークとの連携

◆⑥LCCの誘致

- ・国内外の航空旅行会社へのセールス活動

◆⑦クルーズ船の誘致

- ・プリンセス・クルーズ社、コスタ・クルーズ社、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社等へのセールス活動

直近の成果(アウトカム)

- ◆国別戦略に基づく誘致活動(平成22年1~9月10,510人泊 → 平成24年1~9月12,580人泊(19.7%増)(参考:平成23年1~9月8,740名)
- <台湾>国際旅行博での問い合わせ7割増など、これまでより知名度が向上。春(4月)、秋(11月)とチャーターによる誘客849名
- <韓国>チャーター便就航に向けた動き開始(H25年度以降チャーター便(180席乗り)×5回)
- <香港>日本送客NO.1の旅行会社の高知県視察
- <中国>安徽省旅游局、旅行会社等との観光交流に向けた動き
- <シンガポール>大手旅行会社によるドライブツアーの実施(年3回)
- <共通>国際ジオパークツーリズムネットワークの構築

目指すべき姿(平成27年度末)

- ◆チャーター便が定期的に運行され、外国人観光客が訪問しやすい環境が整う
- ◆観光地や宿泊地等での外国人の受入環境整備が充実する